列車がお客様と接触した場合

▶目次に戻る

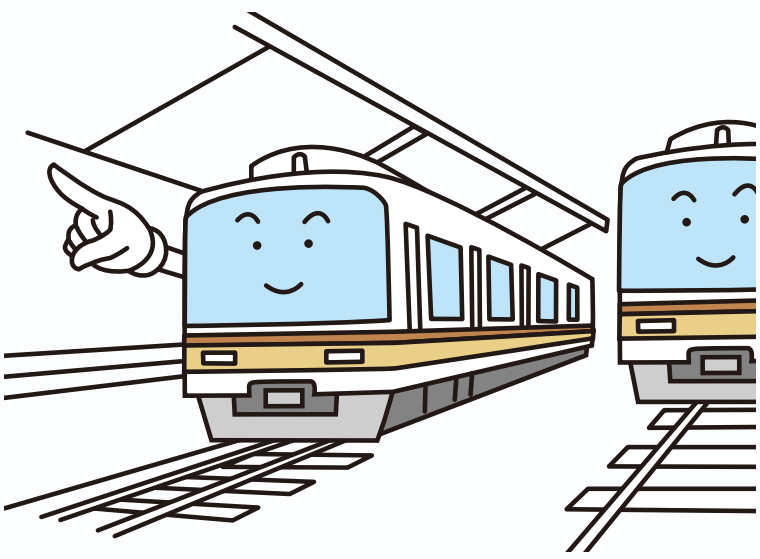
「お客様と接触」と放送があったけど、
運転再開まで何をしているの？

負傷者の救出や警察による現場検証、
隣接する線路の確認などを行っています。
必要な手続きが終了し、現地で対応に
あたった係員、警察や消防の退出など、
現場の安全確認を行ったうえで
運転を再開します。

▶目次に戻る

運転再開までの流れ

運転士は列車を止めて、さらなる事故を防ぐために周囲の列車を停車させる信号を発信します。その後、直ちに指令所に状況を連絡するとともに、乗務員はお客様の安全を確認します。



乗務員が現地の状況を確認し、負傷者の救出などに影響しない列車については、確認が出来次第、運転再開します。

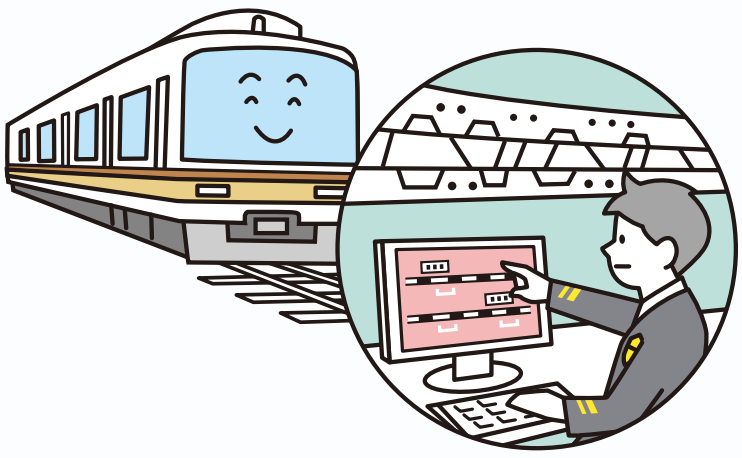
列車がお客様と接触した場合

▶目次に戻る

運転再開までの流れ

警察や消防が到着すると、負傷者の救出や現場検証等が行われます。夜間の場合、負傷者の救出や所持品の捜索などに、時間を要する場合があります。

負傷者の救出や警察による現場検証が完了し、現地で対応にあたった係員、警察や消防の退出や運転再開に向けた現場の安全確認を行います。



異常がなければ運転再開します。

列車がお客様と接触した場合

▶目次に戻る

Q. 列車との接触を防ぐ取り組みは行っているのですか？

A. 列車がお客様と接触しないように、以下の様な取り組みを進めています。

●ホームでの防止対策

ホーム柵

お客様のホームからの転落や列車との接触を防ぐため、ホーム柵の開発、整備を進めています。

ホーム安全スクリーン

お客様のホームからの転落をセンサーにより検知し、自動的に乗務員や駅係員に異常を知らせるシステムを開発し、整備を進めています。

内方線付き点状ブロック

ホームの内側に線状突起を設け、安全側をお知らせしています。

CPライン

赤色に塗装し、ホーム端部の視認性を向上させています。

列車がお客様と接触した場合

▶目次に戻る

ホーム非常ボタン

ホームから転落された場合などに押すと、駅係員や乗務員に異常を知らせる非常ボタンを設置しています。

ホームのベンチの向きの変更

お酒を召されたお客様の行動特性として、ベンチから立ち上がり、線路に向かって歩き出し、転落するケースが多いため、ベンチを線路に対して垂直に設置する対策を実施しています。

青色LED

ホームに沈静効果の期待される青色照明設備を一部駅に設置しています。引き続き、効果の検証を実施していきます。

●駅間での防止対策

駅間フェンス

線路内に侵入できないように、フェンスの設置を進めています。

●踏切での防止対策

障害物検知装置

踏切内に取り残された自動車などを検知し、乗務員に異常を知らせます。

列車がお客様と接触した場合

▶目次に戻る

全方位型踏切警報灯

どの方向からも見やすくした警報灯の設置を進めています。

踏切の非常ボタン

踏切内で自動車や人が動けなくなっている場合などに押すと、特殊信号発光機が発光し、乗務員に異常を知らせる非常ボタンを設置しています。

青色LED

踏切に沈静効果が期待される青色照明設備を設置しています。引き続き、効果の検証を行いながら設置を進めていきます。

啓発活動

「いのちの電話」と連携した活動

鉄道による自殺は、大切ないのちが失われるだけでなく、電車が止まることによる社会的影響も大きいため、「公益財団法人JR西日本あんしん社会財団」、近畿2府4県の「いのちの電話」と共同で作成したポスター等を京阪神エリアの各駅に掲出しています。

お酒を飲みすぎたお客様や体調不良のお客様が列車と接触されることや、線路内への転落を防止するための啓発や、危険な場面を見かけたら迷わず非常ボタンを押していただく啓発を実施しています。